

オバマの対キューバ和解政策を裏切るバイデンとキューバの民衆デモ

ポール・ジェイによるジェームズ・アーリーのインタビュー、脇浜義明訳

出典：Analysis.news, July 19, 2021

ジェイ：キューバで異例の抗議が起きています。共産党支配の終焉を求めるデモ、物資や行政サービスの不足を訴えるデモ。反対に政府と社会主義を支持するデモや集会もありますが、これは米国のメディアは報道しません。フロリダのキューバ系米国人や政治家が米軍の介入を求める声もあります。また、キューバ制裁の経済封鎖を辞めるべき時期だ、オバマがやりかけたがトランプが元へ戻し、バイデンが継続している通商禁止政策をやめるべきという声もあります。さて、本日は、スミソニアン博物館の元教育担当及び公共サービス書記官で、現在政策研究所の研究者あるジェームズ・アーリーさんをお招きしています。彼は45年間にわたってキューバ市民社会とキューバ政府を研究、キューバ医療学校卒業式に参列したときにミゲル・ディアス＝カネル大統領に会っています。参加ありがとう、ジェームズ。

アーリー：こちらこそよろしく。

ジェイ：まず、キューバではいったい何が起きているのですか。

アーリー：異例という言葉が適切でしょうね。異例な物質的現実と政治的現実に対して前例のない大衆的デモが起きています。政権交替を起こしてキューバ革命を潰そうとする米の60年間にわたる経済戦争に加えて、コロナ・パンデミックとトランプ政権が仕掛け、バイデンが選挙公約を破って踏襲している対キューバ強硬政策のために、キューバはソ連崩壊時以来の苦境に立っています。国民が苦しんでいます。食物不足と買い物の長い列がありません。政府は、オバマ政権と国交回復へ向かって合意したラウル・カストロ以来の10年間、官僚的不効率は正と人民への物資供給方法を検討してきた。現在はラウル・カストロの盟友ディアス＝カネルが大統領です。彼もほぼ毎月官僚主義や経済不効率は是正や物資の国民への供給や国民の妥当な欲望の充足について党と政府に語り続けてきました。そういう文脈の中で大衆デモが起きたのです。この抗議やデモの背景には大まかに言って二つのイデオロギーがあります。一つは大統領解任と資本主義復活を求める反社会主義的イデオロギーで、米務省、右翼キューバ人、ベネズエラ人、コロンビア人、ブラジル人など米のマイアミを拠点とする右翼やマフィア組織と結びついている。

もう一つは愛国者キューバ国民で、社会主義者や共産主義者です。彼らも現状批判をしますが、まったく異なる視点からの批判で、政府という世話役に消費財の潤沢な供給と自由と地方分権を要求しています。しかし、西側メディアはこれをキューバ社会主義の敗北と単純化して報道、人民を救う道は自由主義と人道的支援だとします。バイデンはキューバにワク

チン供給の用意があると言いましたが、国外で働くキューバ人の本国送金を禁止したままです。キューバは効果的なワクチンを二種類開発して発展途上国に供給しているので、バイデンの言葉は空虚な政治的戦略にすぎません。バイデンと副大統領ハリスは選挙中公約したオバマのキューバとの関係改善の公約を破っています。

ジェイ：米の偽善は周知のことです。キューバに民主主義をと言うのなら、その前に自分たちが支配するハイチの民主化をやるべきです。もう何十年も米国の大企業と犯罪組織はハイチの寡占一族と組んでハイチ国民を奴隷のように扱ってきました。まずこの不正を正すべきでしょう。

とは言え、キューバに問題があることも事実です。私があなをインタビューに選んだのは、あなたがキューバの研究者だからです。あなたが言うように指導部自身が自国政府の不備をオープンに話しています。そのキューバ社会主義の悪い点を語って欲しいからです。基本的な批判、西側からばかりでなく、キューバ内部からも聞こえる批判は、人民の政治的権利の不十分さ、言論や結社の自由の欠如、多党制の不在、中央集権です。そうなった歴史的背景を話してください。

アーリー：私の資料はキューバ人自身の内部議論や決議などに負っています。例えば、公的メディアの『グランマ』が人民の気持ちや意見を反映していないという批判は社会主義者自身からこの数十年出ていて、『グランマ』自身も読者と対話する欄を新設するなどの若干の改善をしました。『グランマ』記事は必ずしも人民の意見の反映とは言えませんが、過去60年間の政府と人民のやり取りを垣間見ることができます。人民の間に自由な意見交流の場がないという不満に対し、政府はインターネットへのアクセスを増やしました。今回のデモや集会の促進にこのインターネットが役に立っています。また、上意下達の中央集権から地方分権への要求についても、政府の党の内部から地方分権への移行を推進する決議が上がっています。中央指導者の任期について二期以上の連続を禁止する法律はラウル・カストロ自身が提起したもので、彼自身二期大統領を務めた後ディアス＝カネルと交替しました。

社会主義文化の中で民主主義の花を咲かせようとしています。しかし、民主主義は多様な状況の中で人民が自分たちの主体性と先取りの力を様々な方法で発揮する実質的なものとは西側では見られずに、一つの観念的普遍として扱われる形而上学的言辭になっています。キューバでは上意下達式の中央指導部が、国連が世界一教育水準が高いと評価するキューバ国民に、分権化という形で依存するという新しい光が現れているのです。アウトサイダーとしての私の目には、これがもっと発展すると思います。西側の大国が偽善的民主主義を押し付ける必要はありません。キューバ人民自身がお互いに交渉し、批判し合い、妥協し合い、それが人民の力を強くする形で反映される過程が重要なのです。例えば小企業用市場を認めるかどうかという経済調整が行われたり中止されたりしながらずっと議論

されています。それがベトナム型になるか中国型になるか、あるいはキューバ独特の形になるか、国民も政府もそれぞれまだ満足していません。

ジェイ：私は、キューバ社会主義がもっと人民の公的意見発表や自主的政治組織結成の自由を求める開放性があればよいと思っていました。しかし、すぐ近くに米国の資本家やマフィアやマイアミの右翼キューバ人コミュニティが革命潰しを虎視眈々と狙っています。少しでも隙を見せれば島内の反社会主義的勢力に資金援助をしたり、何らかの口実で介入してくるので、どうしても防衛的にならざるを得ないのでしょう。

一例をあげます。あの9・11テロの後の委員会で発見された事件ですが、1962年のキューバ危機のとき、ロバート・ケネディが秘密会議で、民間旅客機撃墜事件を起こして、それをキューバの仕業だとしてキューバに軍事侵攻しようという計画を提案した記録が発見されたのです。このような脅威がいつもあるので、キューバ社会主義がなかなか開放性に踏み切れないのでしょう。それでもやはり、人民の立場で考えると、もっとオープン性があった方がよいでしょう。

アーリー：ケネディ提案の件は初耳ですが、1898年事件を思い出しました。米国がスペイン戦争の口実にした事件で、米国がハバナ港停泊中の米戦艦メイン号を爆破して、キューバ占領の口実にした事件です。キューバの民主化を語る国の卑劣な反民主主義的行為です。

しかし、開放性に関する希望については、私も同じ意見です。「何事によらず我々が国民に施す立場だ」という中央集権的国家主義的思考方でなく、「我々は国民と協働する世話役」という立場で、民衆の多元的でしばしば矛盾し合う意見や希望を整理して客観化する責任を担い、妥協案を政策として提示する政府であるべきだと思います。国内政策にせよ対外政策にせよ、政策はいつも妥協案です。

革命元年に党と政府はキューバには人種問題は存在しないとしてタブーにしたのは、配慮を欠いた荒っぽい政策だと思いました。1989年に私はキューバの人種問題に関する考察という論文を書きましたが、その論文の中で、存在する現実を正直に認めないで削除することはかえって政敵にその点をつつかれて不利になることを指摘しました。事実米國務省はキューバの人種問題を取り上げて民主主義でないと攻撃したのです。事実即してオープンにした方がキューバ革命にとってプラスだったのです。批判的マルクス主義者の故フェルナンド・マルティネス・エレディアは、自分の成し遂げた偉業に酔わずに常に批判的に自己を見よと言いました。キューバは僅かな資源と人口で革命を成功させて世界の荒海に乗り出す偉業を果たしましたが、それに酔ってはいけません。常に鏡の中の自分を見て、「何処に欠点があるか」を問わなければなりません。国内政治でも、健康問題でも、バイオテクノロジーでも、教育・芸術・文化でも、連帯や国際主義でも、この恐ろしいパンデミック対策に関しても発展途上国だけでなく先進国との協力関係はどうかと、常に自己批判的視点が必要です。自己批判がある限り、キューバ社会主義政権は崩壊しません。

あなたは多党制について述べました。キューバは一党支配です。現在世界の進歩的人々や社会主義者が多党制について議論しています。キューバがどういう答えを出すかは分かりませんが、人民と政府の間の議論は避けて通れないでしょう。

ジェイ：マルクスとエンゲルスが「プロレタリア独裁」という言葉を使ったとき、ヒトラーを知らない19世紀環境の中でした。もしヒトラーのことを知っていたら、その言葉を使ったかどうかは、私には分かりません。資本家ブルジョアジーを国家から排除する意味で、それはとりもなおさず労働者にとって民主主義を意味したのでしょうか。一党独裁を意味したわけではありません。一党独裁だと必ず官僚主義的腐敗や欠陥が生まれます。それを正すのは、やはり労働者の民主主義です。

アーリー：同感です。私はチャベスやマドゥロと語ったことがありますが、ベネズエラにも国家主義的傲慢さがあるのは事実です。「何事によらず我々が国民に施す立場だ」という考え方が強く、「人民の奉仕者」「世話役」、「人々の様々な必要と要求の実現を助ける役」という意識がやや希薄です。

ラテン・アメリカでは左翼運動がそのまま政府になったために国家運営が未成熟である点に、民衆が不満を持っています。国家であるためにはもっと制度化を進め、制度や組織化を通じてものごとのバランスを図る必要があります。運動体が国家を形成すると中央集権化し、エリート主義になりがちで、キューバ民衆の不満もそれに起因している面もあります。「我々は一般国民よりもものごとを知っている」という驕りがあるのですね。しかし、キューバ一般国民は教育水準が高いので、そういう上から指導する姿勢よりも、社会主義発展という文脈の中で民衆が力を発揮するのを手伝うべきだと思います。民衆の抗議デモを支持する場合も、そういう文脈で支持すべきでしょう。体制変更を狙った他国介入を許さないのは当然ですが、それ以外の点では広い心で外国人の批判や提案に耳を傾けてもよいのではないのでしょうか。

ジェイ：数年前キューバ国内をレンタカー旅行し、多くのヒッチハイカーを乗せたことがあります。よくキューバでは自由な行動はできないと言われますが、そんなことはありませんでした。

アーリー：どこの国でも入れないところはあります。軍事基地への立ち入り禁止や政府建物に身分証を提示せずに自由に入ることが出来ないのは、キューバでも米国でも同じです。

ジェイ：ホテルのボーイと親しくなりました。お宅を訪問したいと言うと若干躊躇しましたが、連れて行ってくれました。質素で清潔な家で、壁にカストロの写真があった。昼ご飯を食べて行けと言われると期待していたのに、しばらくすると「もういいだろう。近所の人

目があるから」と言われました。警察でなく地域の目を気にしていました。

アーバン：革命防衛委員会のことです。米国でもテロ警戒時には「地域に不審者がいないか気を付ける」と警戒体制が引かれます。

ジェイ：ヒッチハイクで乗せた人々は不満を訴えましたが、マイアミのマフィアを嫌ってました。行政を批判しましたが、政権を嫌っているわけではなかったです。品不足への不満というより、それが平等に共有されていないことに抗議しましたが、だからといって米国や外国在住の右翼キューバ人の介入は望んでいませんでした。

アーリー：キューバ人は誇り高い国民です。彼らはフィデル・カストロがヘルスケアや教育制度などに関する高い理想を持ち、その実現に協力したことを誇りに思っています。革命過程で指導部には3回の方針変化がありましたが、民衆レベルでは常に一定していて、一定の価値観、ヒューマニズム観、参加感覚、集団性を内面化しました。「わが国には問題があるが、それは我々自身が解決する問題で、他国の干渉は要らない」という意見が多数派です。キューバはコロンビアのようにはなりません。コロンビアに7つの軍事基地を持つ米国は右翼政権や民兵の労働組合弾圧やアフリカ系や先住民殺害や差別を援助しています。世論調査で人口の半数がアフリカ系と答えたブラジルでも右翼政権のアフリカ系と先住民虐待が行われ、バイデン＝ハリス米政権はそれを黙認しています。ハイチではギャング集団の横暴を支援しています。米国はラテンアメリカのイスラエルです。その米国がキューバ民衆に民主主義を与えているのです！

最近の国連の投票では、米国のキューバ封鎖に反対する投票は184対2でした。今や米国は国際的悪者です。私は、オバマを利用しながらオバマ＝ラウル・カストロの前向き雪解けを裏切ってトランプの対キューバ姿勢を踏襲するバイデン＝ハリス政府が次の選挙でしっぺ返しを受けるのではないかと考えています。キューバやコロンビアやハイチなどへの反動政策だけでなく、国内問題でも、例えば公民権や右翼の人権侵害の問題などで選挙公約と違う態度が目立っています。左派によるしっぺ返しだけでなく、平和と国際協調を願う一般の良識的米国人のしっぺ返しがあると思います。

ジェイ：最近の米メディアは、キューバの窮状は米の経済制裁と無関係だという論調です。キューバは米国を当てにしないで他の国と貿易すればよいではないか、など書いている新聞もあります。

アーリー：米国とキューバの距離は90マイルほどで、ミシシッピ川流域の共和党支持者の業者でさえ、キューバへの鶏肉輸出を望んでいます。米国は自国からの輸出ばかりでなく、他国のキューバ輸出を禁じて妨害しています。

ジェイ：鉱業でキューバと取引をしたカナダの会社の経営陣は米国への入国禁止処分を受けました。

アーリー：敵対国だけでなく同盟国にもそういう帝国主義的姿勢を適用しています。世界は繋がっています。我々は単に一国の国民で終わる存在ではないのです。みんな地球的责任を持っている時代で、自国政府の国際的悪者振る舞いに加担してはいけません。米の経済制裁がキューバに物質的に破壊的な影響を与えている中で、ディアス＝カネル大統領は、キューバ自身の姿勢として、自分たちの経済政策の失政、不十分さ、欠点にも目を向けなければならぬと言っています。

経済制裁に反対する声をバイデン政権に発する声は少しは増えていますが。下院の民主党外交小委員会のグレゴリー・ミークス議員は、ベネズエラ選挙でマドゥロが勝利して新議会を招集したとき、「この機会に対話を始めるべきだ」とバイデン政府に言ったが、国務省のブリンケンが「大統領はマドゥロではなくグアイドだ」という馬鹿げた答弁をしました。キューバに関しても同じ姿勢をやるのでしょうか。本国送金を禁じていながらキューバにワクチン供給という実質性を欠くリップサービスを行ったバイデンの偽善的態度に見えるのは、「米国の圧力の下でキューバ人がどこまで耐えるかを見よう。耐えかねたキューバ人が政府打倒に走るのを見よう」という姿勢です。

ジェイ：キューバはワクチンを開発しているじゃないですか。何故バイデンはそんなことを言うのですか。

アーリー：ワクチンがあっても、経済封鎖のために注射器とかコロナ予防のための換気装置が不足しています。キューバでも感染者急増が起きましたが、キューバの人口はオハイオ州とほぼ同じですが、オハイオ州より感染者数と死亡者数ははるかに少なかった。キューバよりも国家予算や資源が多く、自由貿易をやっているブラジルやコロンビアやメキシコに比べるとコロナ対策はとても効果的でした。

コロナ対策に関しては、他の病気対策と同じように、体制や思想の違いを越えて国際的協力で取り組むべきです。キューバが開発した癌予防薬や糖尿病治療薬は世界的に用いられています。しかし、米国は、民主党も共和党も一般国民も含めて、大国的傲慢さに留まっています。しかし、やっとなんげと少しずつですが、それを打破する徴候も見え始めています。何人かの議員がバイデン政権にキューバ制裁の中止を求めています。近日中にキューバ経済封鎖解除を呼びかける意見広告を、私も含めた何人かの人々でニューヨーク・タイムズ紙に載せます。バイデンの偽善を暴き、正しい国際協力へ向かう道を開拓します。